

国際セミナー2014  
「Cultural Rebellion in Asia 1960-1989」  
2014年9月30日—10月2日  
スケジュール

1日目 9月30日(火) 18:00-20:00

国際交流基金 9階第一セミナー室

18:00 - 18:05	ご挨拶： 国際交流基金アジアセンター
18:05 - 18:50	開催趣旨： 鈴木勝雄（東京国立近代美術館主任研究員） 「今、アジアの文化的連帯を想像するために」
18:50 - 19:00	質疑応答
19:00 - 20:00	レセプション

2日目 10月1日(水) 10:00-18:30

国際交流基金 2階 JFIC ホールさくら (同時通訳)

セッション I (東アジア)	
10:00 - 10:05	モデレーター (鈴木勝雄)
10:05 - 10:35	発表1 皮力 (ピー・リー) (M+ シグ・コレクション・シニア・キュレーター) 「正解は間違っている：1989年以前の中国美術」
10:35 - 11:05	発表2 パク・ヘソン (韓国国立近現代美術館キュレーター) 「バウンダリー・ライダーズ：1960年代から80年代の韓国の前衛美術」
11:05 - 11:15	休憩
11:15 - 11:45	発表3 頼瑛瑛 (ライ・エイエイ) (国立台湾芸術大学教授) 「台湾の前衛：1960年代から1980年代」
11:45 - 12:15	発表4 林道郎 (上智大学国際教養学部教授) 「揺れ動く文化的反乱の地図：1960年代から80年代にかけての日本の場合」
12:15 - 13:30	昼食
セッション II (東南アジア)	
13:30 - 13:35	モデレーター (林道郎)
13:35 - 14:05	発表1 パトリック・D・フローレス (フィリピン大学ディリマン校美術学部教授) 「突然の可視化：フィリピンにおける実験と啓蒙としての美術」
14:05 - 14:35	発表2 アンドレアス・スジャド・ダルタント (インドネシア芸術大学講師) 「ポスト・コロニアル期インドネシアの [インドネシア・ニュー・アート・ムーヴメント]：脱構築、両義性、そして記号化された機能」
14:35 - 15:05	発表3 プラポーン・カムジム (チュラーロンコーン大学アートセンター長) 「タイ美術における雑種の近代」
15:05 - 15:15	休憩

国際セミナー2014  
「Cultural Rebellion in Asia 1960-1989」  
2014年9月30日—10月2日  
スケジュール

15:15—15:45	発表4 アデル・タン (シンガポール国立美術館キュレーター) 「アートの周縁におけるマルクスの亡霊たち：クオ・パオクンのシンガポール演劇とタイ映画『トーンパーン』にみる《左翼的学习》」
15:45—16:15	発表5 サイモン・スーン (シドニー大学博士課程) 「マレーシア：文化的抵抗 1963—1989年」
16:15—16:45	発表6 ユージン・セン (シンガポール国立美術館シニア・キュレーター) 「新しいものと現実的なもの：第二次世界大戦後の東南アジアにおける 1950年代から 80年代の展覧会の言説からみる《アヴァンギャルド》概念の競合
16:45—17:15	発表7 グエン・チン・ティ (ビデオアーティスト、ハノイ DocLab 所長) 「歴史の再読：古典映画の再利用を通して」
17:15—18:15	討論
18:15—18:30	まとめ、翌日の課題 (林道郎)

3日目 10月2日(木) 10:00—13:00

国際交流基金 2階 JFIC ホールさくら (同時通訳)

セッション III (全体討論)	
10:00—10:05	モデレーター：昨日のまとめや問題提起 (林道郎)
10:05—10:35	ディスカッション1 (ベトナム戦争の影)
10:35—11:05	ディスカッション2 (文化革命の影)
11:05—11:15	休憩
11:15—11:45	ディスカッション3 (「アヴァンギャルド」という概念)
11:45—12:15	ディスカッション4 ([ポスト＝] ナショナリズム、ポストコロニアリズム)
12:15—13:00	まとめ (林道郎)

\*セッション III 内のトピックは、各発表内容や議論によって変更になる場合があります。

\*各発表は、20分間と10分間の質疑応答とさせていただきます。